カラマツの家をつくる 2

今回は、道産無垢カラマツ材を使用したＴ邸を訪問しました。
施主は、林業に携わる方で、道産カラマツにかなりこだわった方でした。

大工さんを説得した

施主は、どうしてもカラマツで家を建てたかったが、頼もうと思った設計事務所や大工さんはカラマツを使ったことがなかった。一般にカラマツは割れやすく、ねじれやすいと思われており、設計事務所も大工さんもカラマツの使用をためらっていた。

しかし、今回のカラマツはこれまでのカラマツとぜんぜん違う。芯去りの無垢材１２cm 角、材長が６m の材がとれる 72 年生のカラマツである。枝打ちもまめに行われており、節も少ない。見てもらえばわかる。

施主は挽いたばかりのカラマツを見せに、大工さんを帯広の製材工場まで連れて行った。そして、大工さんは納得した。

（120mm×300mm×3,650mm）
道産カラマツの無垢梁材。クレテックの接合金物がついている

もっと割れるんだろうねぇ

建設中、横架材には、深くはないが幅２～３mm、長さ１０数 cm の“割れ”が入っていた。いくら乾燥した材だからといっても、完全に乾燥するまでに、“割れ”が入ってくる。工業製品が当たり前のこの世の中で、“割れ”の入った木材というのは一般の施主には理解されない。だから建築設計事務所や大工さんは、特に横架材には無垢材を使いたがらない。

でも、いくら“割れ”が入っても、強度には影響がない。林業に携わる施主はそのことをよく知っている。「もっと割れが入るんだろうねぇ」というその言葉には、何のためらいもない。

もっとプレカット工場の配慮があれば

土台と柱の接合部。ちょうど 7.5mm ずれている。

木造在来工法で使用される主要な角材には、10.5×10.5cm と、12×12cm の２種類がある。現在は 10.5cm が主流だ。今回、施主は 12cm にすることに決めた。

ただ残念だったのは、プレカット工場の注意が足りなかったことだ。プレカット工場はコンピューター制御により木材に切込みを入れていくが、入力の一部が 10.5cm のためのものであったため、長さが足りない箇所が生じてしまった。そのため、土台のつなぎ目は、ちょうど正確に 7.5mm（12cm－10.5cm の半分）だけずれている。

また、見え掛けになる柱には節があるものもある。特に 6m の通し柱のカラマツの無垢材では節が目立つ。

しかし、木材のすべての面に節があるわけではなく、たくさんある面もあれば、ほとんど無い面もある。柱を見え

掛けにする場合は、節などを表面に出さないような配慮が必要だ。

今回はプレカットを行っており、木材の位置や向きはプレカット加工の段階で決まる。残念ながら、プレカット工場では見え掛け材に対する配慮が十分でなかったようだ。今回使用したカラマツは、無節材が２面、一部は３面でもとれるものであった。「もう少し配慮があれば」と施主は言う。

つい、横架材を見せてしまう

当初、梁はすべて隠す予定であった。しかし、施主は、木材の生産地（森林）から、製材、加工、建築のすべての工程を自分の目で見ながら確認してきており、木目や色がきれいなカラマツを隠すことが「もったいなく」なってきた。

そのため、内装工事に入る前に設計を変更し、急きょ、梁を見せることにした。

そんな道産無垢カラマツの梁は、存在感があり、天井にアクセントを与えてくれる。天井が高くなり、壁との接合部に段差が生じてしまったが、内装に梁を見せた効果はあったようだ。

あらわになったカラマツの梁

＜材料を供給した業者＞

建具　　久保木工(株)
構造用集成材　　佐藤木材工業（株）

＜構造材＞
竹中山林７２年生カラマツ

カラマツの天井に、トドマツの壁、床は１階にウダイカンバ、２階にミズナラを使用。全て道産材。ハーモニーが美しい。

和室の台輪・長押や窓枠にもカラマツを使用。ちなみに、壁は珪藻土を使用。柱が天井まで続いていないのは、設計を変更し天井を高くしたためで、大工さん泣かせであったという。